

巻頭言



会長 中前 和則

平成 28 年度は正念場 ～強い組織が必要～

会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと存じます。

本年度は、紀の国わかやま国体および紀の国わかやま大会（全国障がい者スポーツ大会）が開催され、参加された会員の方は貴重な経験をされたことと思います。会員の皆様のスポーツ障害に対する理学療法を研鑽する良い機会となり、また県内外に対する理学療法の広報活動にも大きく貢献できました。ご参加頂いた会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

また、例年の事業に加え地域医療再生補助金による事業も加わり盛りだくさんの事業となりました。事業を実施することで、会員の皆様への研鑽の場を広げるとともに、補助金を頂いた県へのアピールにも繋がりました。事業を実施頂きました役員及び会員の方々に重ねて御礼申し上げます。

さて、2016 年（平成 28 年）は、私たち理学療法士にとって正に正念場の年になります。今年 1 年の活動が理学療法士の将来を決めてしまうと言っても過言ではありません。

団塊の世代が全て 75 歳以上となる 2025 年（平成 37 年）を間近に控え、医療介護総合確保推進法が成立し、地域包括ケアの推進や地域医療構想の策定が進められています。また、2020 年（平成 32 年）の財政健全化目標を達成するために、社会保障とりわけ医療制度の改革が迫られています。実際、2018 年（平成 30 年）には、次期医療計画や医療費適正化計画の策定、改正国民保険法の施行、診療報酬と介護報酬の同時改定など一連の改革プログラムが結節します。この数年は、医療関係者にとっては正に正念場の年になると思われます。

そのような中、直近の 2018 年～2025 年に向けての理学療法士の取り巻く環境には非常に厳しいものがあり、その解決のためには政治活動は避けて通ることはできません。昨年 12 月 22 日、日本理学療法士協会副会長の「小川かつみ」氏が、今年の参議院選挙の自由民主党の公認候補予定者として決まりました。小川氏は、障がい者・高齢者の代弁者として、また理学療法士の代表として全国展開をしています。

私たち理学療法士協会は、公益社団法人であり選挙活動はできないものの、政治活動は可能です。日本理学療法士協会と都道府県理学療法士協会は、理学療法士のもつ課題を小川かつみ氏に託そうと考えています。

医師会、薬剤師会、看護協会、臨床検査技師会等のメディカル団体は、以前から自由民主党の国会議員がおり、政策を組織内議員に託し実績を上げています。

理学療法士 10 万人が結集すれば夢が形となります。会員の方々には、将来を見据え行動して頂くことを切に望みます。

現在、厚生労働省の中央医療協議会では、平成 28 年度診療報酬改定が検討されています。その中で、早期リハビリ開始、回復期の集中した質の高いリハビリ実現に向けてのアウトカム評価のため FIM が取り入れられます。正に、本物の理学療法とその客観的効果判定が要求されてきます。そのような中、先ずは会員一人一人が理学療法の研鑽を深め質の高い理学療法を提供できるようにならなければなりません。県協会では、引き続き会員の皆様が身近で研修を積める研鑽の場を提供していきたいと考えています。

また県協会は、現在までお伝えしてきたとおり、学術研鑽、公益活動、職能活動に力を注いでいきますが、平成 28 年度は、組織力強化と事務局機能強化に取り組みます。

組織改革は、組織の統廃合と地域の支部化、事務局機能強化のための事務員雇用、理学療法士職員の配置を検討しており、地域包括ケア推進に向け、会員が市町村で活動しやすいように県内を10支部に支部化します。

加えて、リハ3団体の協力体制強化や、地域包括ケアシステム推進に向けて、地域活動におけるリハ職としての協力及び連携が必要となり、現在、和歌山県リハ専門職協議会を設立し取り組んでいます。更なるリハ3団体の協力体制強化に向けて取り組んでいきます。

事務局機能強化については、他の都道府県士会では、既に事務所を設置し事務員雇用、理学療法士の先輩等に常駐して頂き、会員管理と地域包括ケア推進における市町村からの依頼に対応しています。当協会も、和歌山県の福祉棟である「ビッグ愛」に事務所を借りていますので、そこに事務局を移転し機能強化を図りたいと考えています。

上記の通り、会員一人一人が将来を見据えた行動が必要となりますし、県協会も将来を見据え変わらなければなりません。

会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

■平成27年度和歌山県医療従事功労者表彰受賞■

表彰審査委員長 前 裕充

去る1月27日（水）に和歌山県医療従事功労者賞の授賞式が和歌山県庁で有りました。

今年度は当会より「森本昌信氏」、「吉富俊行氏」の両名が受賞されました。

授賞式は「和歌山県庁本館4階、正庁」にて知事及び福祉保健部長、医務課長および関係各位、約50名の参列で粛々と執り行われました。事務局長、副会長揃っての受賞、誠におめでとう御座いました。



理事会 報告

■平成27年度第5回理事会 報告■

日時：平成28年1月30日（土） 15:30～18:55

場所：アバローム紀の国5階 フリージアの間

参加者：18名

（出席理事）中前、林、上西、吉富、森本、前、岩崎、須賀、松井、池田、南、永金、辻中、西川、安井

（出席監事）浦、川村 （書記）坂本

・会長挨拶：本年も職能団体として学術・公益・職能の3本柱で運営を進めて参ります。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。全国的に見ても事業の数が多くなっています。和歌山県において地域を支部制等、組織改革を検討しており、その節はご協力をお願いします。

1. 各局からの報告・検討事項

1) 事務局：別紙資料にて報告

①会員異動等について

平成28年1月25日現在 会員数：1,083名

②平成28年度理事会予定

第1回 4月23日（土）、第2回 6月25日（土） 拡大理事会・懇親会開催、第3回 9月10日（土）

第4回 10月29日（土）、第5回 1月21日（土） 新年会、第6回 3月11日（土） 予定

2) 学術局：次年度計画を別紙資料にて報告

①第56回近畿理学療法学会進捗状況について：別紙資料にて報告し承認を得る。

市民公開講座の司会については林副会長にお願いする。

市民公開講座についてはメディア対応に対する準備検討が必要

兵庫の決算報告を精査した上で予算案を再検討する。

士会分担金が600円/人の予算も検討する。

②平成28年度新人研修、オリエンテーションについては出来るだけ新人会員が参加しやすいよう工夫、検討する。

また開始時間についても1時間早くすることを検討する。

各施設に新人会員の参加を促すよう理学療法士長宛に文書等でお願いする。

③28年度予算 100万円 → 130万円を計上

3) 福祉・保健局：次年度計画を別紙資料にて報告

①「第87回、88回地域リハビリテーション講座」の事業は引き続き福祉・保健局で計画案を提出する。

実施については連盟への委託含め検討する。

②平成28年度予算 80万円から142万円を計上 → 事業の見直しも含めて検討する。

4) 社会局：次年度計画を別紙資料にて報告

事業報告および平成28年度計画、予算案提出

5) 厚生局：次年度計画を別紙資料にて報告

事業報告および平成28年度計画、予算案提出

6) 広報局：次年度計画を別紙資料にて報告

①ホームページの刷新を委託業者の再検討も含め検討中

②事業報告および平成28年度計画、予算案提出

7) 紀北地域局：次年度計画を別紙資料にて報告

事業報告および平成28年度計画、予算案提出

8) 和歌山市地域局：次年度計画を別紙資料にて報告

①第2cブロック部員であった河口沙織先生（寺下病院）の県外異動に伴い部員を風神真也先生（うらがみ内科クリニック）に交代→承認

②事業報告および平成28年度計画、予算案提出

9) 中紀地域局：次年度計画を別紙資料にて報告

事業報告および平成28年度計画、予算案提出

10) 紀南地域局：次年度計画を別紙資料にて報告

事業報告および平成28年度計画、予算案提出

11) 財務局：次年度予算を別紙資料にて報告

12) 代議員：次年度計画を別紙資料にて報告

各担当局事業計画・予算案については、一部修正を加え次回理事会において最終決定とする予定

2. その他

1) 地域包括ケア推進特別委員会

地域包括支援センター機能強化事業における申込・実施状況について、県からの予算として40件の依頼があり順次実施している。

1月29日までに26回を終了している。

本年度の業績を鑑みて、来年度も県から事業継続の意向がある。

福祉・保健局より

福祉保健局担当理事 松井 有史

福祉保健局では、下記の通り委託事業や独自事業を行いました。地域の皆様と福祉、保健活動を通して理学療法士のつながりを持つよう積極的に事業展開を行う予定です。皆様のご参加お待ちしております。

◇「第13回輝け・病気の子どもたち！リゾートキャンプ」参加

障害者福祉部長 青石 博文

平成27年11月14日（土）～15日（日）和歌山マリーナシティに於いて和歌山県難病の子ども家族会主催「輝け・病気の子どもたち！リゾートキャンプ」に運営協力致しました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、子どもさんの身の回りのお世話や遊び、入浴介助など子ども達のパワーに圧倒されたとても熱く有意義な2日間でした。

今年も例年同様に保護者の方々に対し「ストレッチ教室」を行いました。「普段運動しないから楽になったわ」や「体がスッキリしたよ」との声を頂戴しとても有意義な教室であったと思います。

当日ご参加ならびにご協力頂きました先生方におかれましては、入浴介助など様々な予定変更にも快く対応していただきこの場をおかりし御礼申し上げます。

事業名：第13回輝け・病気の子どもたち！リゾートキャンプ

主 催：和歌山県難病の子ども家族会

後 援：和歌山県（難病・子ども保健相談支援センター）

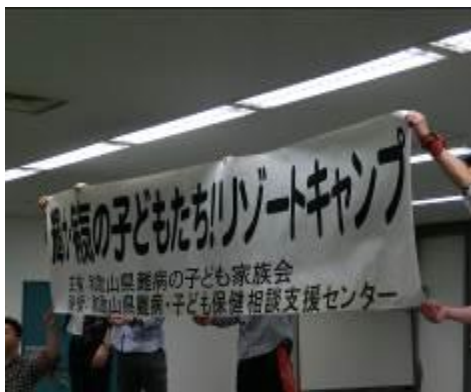
日 時：平成27年11月14日（土）～15日（日）

場 所：和歌山マリーナシティ

参加者：須賀（白浜はまゆう）、岩崎（さくらクリニック）、稲垣・北口（愛徳）、辻（橋本市民）

青石・高野・山口（済生会有田）、奈良岡・三家（有田市立）、佐野（辻整形）・岩田（宇都宮）

8施設12名



「輝け、病気の子どもたち！リゾートキャンプ」に参加して

宇都宮病院 岩田 薫

私は、今回、初めてこのイベントに参加させて頂きました。これまで、主に成人の方やご高齢の方々と接することが多く、障害をお持ちになっているお子さんとの関わりは殆どありませんでした。そのため、私がどれだけ参加されるお子さんやご家族のお役に立つのかという思いもありましたが、折角の機会を頂いたので、とにかく飛び込んでやってみようという気持ちで臨みました。

私が担当させて頂いた、えりちゃんは、水頭症などの影響によって歩くことや発語が難しいようでしたが、とても豊かなコミュニケーション能力や、自分を表現する力をもっていました。話しかけると、はっきりとした発語が難しいものの、身振り手振り、表情も上半身全部使って表現豊かに思いを伝えてくれる優しいお子さんでした。身体の機能についても、両下肢での抗重力的支持は難しそうでしたが、車いす上での体幹や両上肢の支持は可能で、座面上で身体を行きたい方向へと動かし、好きなピンク色の車いすで動き回っていました。イベントでは、様々な企画がありましたが、えりちゃんは特にボールプールが大好きなようだったので、先生方のお力を借りて、彼女をボールプール

に入れて頂き、私も一緒に入りました。ボールの上に寝たり、転がったり、ボールをぶつけあったりと、私と友達になって一緒に遊んでくれました。

また、えりちゃんは、別の一面も私たちスタッフに見せてくれました。夜、入浴が終わって、ベッドで話をしていた時、気が付くと、えりちゃんは泣いていました。私は少し驚きましたが、ご一緒させて頂いた看護師さんから、彼女が今日、どれだけ周りの人たちに気を使って、心身ともに疲れ切ってしまったかということを教えて頂きました。私にもきっと、楽しんでもらおうと気を使ってくれていたのではないかと思います。だから、最初にお母さんから普段のえりちゃんの様子やどんな子なのか、しっかりと話を聞いておくことや、早めにその変化に気づいて、出来るだけ心と身体が疲れ切ってしまうように配慮することがとても大切なことだと学ばせて頂きました。

最後に、今回のイベントでは、以前大変お世話になっていた看護師さんや、学生時代の友人に偶然再会したことでまた人の縁が繋がり、更に子どもたちと一緒に支えていく人の輪を感じることができました。それだけでも、今回、参加させて頂いて、私自身、人として、母親として、理学療法士として、とても豊かな経験になったと思います。今後においても、私なりにではありますが、このイベントで感じて教えて頂いたことを大切にして活動していきたいと思っています。貴重な機会を与えて頂き、本当に有難うございました。

「輝け、病気の子どもたち！リゾートキャンプ」に参加して

有田市立病院 三家 英嗣

私は11月14日、15日の二日間、和歌山マリーナシティで開催されたリゾートキャンプボランティアに参加させていただきました。この活動は、和歌山県難病の子ども家族会主催のリゾートキャンプで、療養のため外出が思うようにできない子どもや家族が日常から離れ、ボランティアの協力を得ながらイベントを楽しむとともに、交流会や講演会で情報交換をしていただくのが目的の活動で、私はボランティアの遊び担当として参加させていただきました。

私が担当させていただいた子どもは脳性麻痺で車椅子自走できる小学生の男の子でした。難病の子どもとは普段の日常生活でも関わる機会が少ないため、楽しみではありましたがその分不安の方も大きくありました。しかし実際にキャンプが始まってみると、子どもたちの明るさや笑顔に不安は払拭され、自分自身もイベントを楽しむことができました。さらに色々な団体、ボランティアのスタッフの方が様々な遊びを企画、運営しており、その規模の大きさに驚かされました。

二日間という短い間でしたが、子どもたちと接することは普段の業務ではなかなか体験できないことであり、私のほうが子どもたちから学ぶことが多くあったように思えます。今回のリゾートキャンプボランティアでの経験を今後の業務に生かしていきたいと思っています。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

◇介護者のための腰痛予防教室 ～ビューティー・ストレッチ～

日 時：平成27年11月15日

場 所：マリーナシティ わかやま館

内 容：難病障害児介護者への腰痛等予防運動指導

講 師：奈良岡 隆也（有田市立）

対 象：難病児の家族、指導者等



◇和歌山市家族介護教室 2回目

介護保険対策部長 赤澤 直紀

今年2回目の「和歌山市家族介護教室」です。介護者の体力測定をテーマで和歌山市家庭家族介護教室の事業協力を致しました。参加して頂いた方は、熱心に講義を聞いてくださり、予防体操にも積極的に取り組んで頂きました。本教室の内容が少しでも介護者の体力向上に繋がればと思います。

事業名：和歌山市家庭家族介護教室
 講座名：介護予防につながる肩こり・ひざ痛予防と予防体操
 主 催：和歌山市地域包括支援課
 日 時：平成 27 年 12 月 5 日（土）
 会 場：龍神整形外科（リハビリテーション室）
 講 師：赤澤直紀（河西田村）
 対象者：和歌山市在住住民 26 名
 参加者：大川・中谷（河西田村）、福矢（龍神整形外科）、松井（国際厚生）



「介護予防につながる肩こり・膝痛予防と予防体操」に参加して

河西田村病院 大川 直美

「介護予防につながる肩こり・膝痛予防と予防体操」に運営スタッフの一員として参加させて頂きました。今回は 26 名の参加がありました。内容としては、介助者の体力測定を中心に「サルコペニア」などの高齢者特有の筋力低下について講義し、その予防方法を提示しました。参加者の中にはわかりやすかったとの声が聞かれました。体力測定場面ではみなさん真剣に取り組み好記録を狙う方々がたくさんおられ非常に盛り上がりしました。本事業をきっかけに、参加者の皆様が、自身の健康や介護予防の必要性について考えを深め、実行して頂ければ嬉しく思います。

参加者の健康維持・増進に対する意識の高さを知ることが出来、貴重な体験となりました。今後もこのような機会があれば積極的に参加させて頂きたいと思います。

◇第 85 回地域リハビリテーション講座

第 1 ブロック長 美濃 真豊

平成 28 年 1 月 9 日（土）に岩出市にて第 85 回地域リハビリテーション講座を開催しました。

当初は 50 名程度の予定でしたが、参加者を募ると 100 名を超えて大盛況となりました。この事業を他の市町村でも展開したいと考えています。我々が地元の方々に専門職としての理学療法士を広報できる一番の機会だからです。地域住民の皆様にリハビリテーションの大切さを知っていただくためにも参加ご協力いただける先生の一報をお待ちしております。

日 時：平成 28 年 1 月 9 日（土）

場 所：岩出あいあいセンター

参加会員：美濃（赤ひげクリニック）、脇田・松山（はしもと整形）、山本・上田・持田（公立那賀）

脇田（やよいディカル）岡・村上（貴志川リハ）、松井（国際厚生）、岩出市包括 4 名

参加人数：116 名



「第 85 回地域リハビリテーション講座」に参加して

はしもと整形外科 松山 智亮

1 月 9 日に第 85 回地域リハビリテーション講座に参加させて頂きました。

前半は筋力低下や転倒予防を中心に第 1 ブロック長の美濃先生が講座を開き、後半ははしもと整形外科の脇田先生が転倒予防体操を行いました。当日は住民の方々がたくさん参加され、中には様々な健康教室に通われている方も多く、みなさん真剣に聞き、運動・健康に対する意識やモチベーションがとても高いと感じました。

後半では、効率の良い筋力トレーニングの説明と実技指導・体験を実施しました。参加した理学療法士スタッフの人数も多く、実技指導も分担して行うことができ有意義に会を進めることができました。実際に「とてもいい運動になった」との声も聞かれ、とてもよい地域リハ講座となりました。

今回地域リハ講座に参加して理学療法士は予防といった面にも積極的に関わっていかなければならないと感じました。今後もこのような機会を通し、地域の方々に貢献していきたいと思います。

◇和歌山県災害リハビリテーション推進研修会

福祉保健局担当理事 岩崎 正和

平成 28 年 1 月 24 日（日）に有田川町にて和歌山県災害リハビリテーション推進研修会を開催しました。今回は一般市民講座と専門職講座に分け、一般は 165 名の多くの方が参加していただきました。専門職研修会でも理学療法士 71 名、作業療法士 11 名、言語聴覚士 5 名、医師 4 名、看護師 13 名、その他職種 37 名と多数の方が参加され、大盛況でした。災害はいつ起こるか分からないもので日頃の備えが必要になります。また昨今の大規模災害の教訓を生かし、和歌山県でいつか起こるであろう災害に我々専門職がどのように対応するかを問う研修会でもあり有意義な時間を共有することができました。

またこのような機会を増やし、地域に貢献したいと考えておりますので皆様のご協力よろしくお願いいたします。

日 時：平成 28 年 1 月 24 日（日）

会 場：きびドーム 1F 文化ホール、2F 多目的研修室

主 催：公益社団法人 和歌山県理学療法士協会

共 催：有田川町、和歌山県災害リハビリテーション推進委員会

後 援：有田地方介護連携の会

参加者：306 名（一般人 165 名、PT 71 名、OT 11 名、ST5 名、Dr4 名、Nrs 13 名、保健師 2 名、町職 7 名
ケアマネ 16 名、SW4 名、介護福祉士他 3 名、福祉用具専門相談員 1 名、事務・管理者 4 名）

◇専門職研修①（2F 多目的研修室）

講演「災害リハビリテーションについて」

講師：慶應義塾大学大学院経営管理研究科 吉田 俊之 氏（理学療法士）

◇県民公開講座（1F 文化ホール）

一般講座 講演「和歌山県で心配な災害とそれへの対処法」

講師：関西大学 社会安全学部教授、社会安全研究センター長 河田 恵昭 氏

◇専門職研修②（2F 多目的研修室）

講演「災害リハビリテーション支援の実際（～東日本大震災時の経験より）」

講師：慶應義塾大学大学院経営管理研究科 吉田 俊之 氏（理学療法士）

◇専門職研修③（2F 多目的研修室）

グループワーク「災害リハビリテーション支援 ～いざという時、機能するための準備に向けて」

講師：日本リハ病院・施設協会 災害対策委員会 淡野 義長 氏（作業療法士）



◇第5回和歌山県理学療法士協会ボーリング大会

厚生局福利厚生部長 津村 正臣

去る平成27年11月7日、和歌山市内のTTボウルにて平成27年度和歌山県理学療法士協会第5回ボーリング大会を行いました。

今回は17名の参加を頂き、無事に開催する事が出来ました。ありがとうございました。

結果は、白浜はまゆう病院の坂本先生が2ゲームのトータルスコア307というスコアで見事優勝されました。おめでとうございます。坂本先生は前々回、前回に続く3連覇で遠方からの参加にも関わらず、白浜はまゆう病院ボーリング部のエースとして十分過ぎる力を発揮されました。

また来年度も秋頃の開催を予定しておりますので、我こそは坂本先生の連覇を阻止するぞ、とお考えの先生方はもちろん次回も皆様でお誘い合わせの上、多数の参加をお待ちしております。



◇第21回WPTAゴルフコンペ

厚生局担当理事 南 和幸

平成27年11月29日（日）、ラ・グレースゴルフ倶楽部にて第21回WPTAゴルフコンペ開催いたしました。ここ何回かは悪天候に見舞われるコンペでしたが、会場も白浜から印南に変わり、天気も絶好のゴルフ日和の中開催することが出来ました。今回も作業療法士、言語聴覚士の先生方にも参加して頂き総勢29名、好プレーあり、珍プレーありで和気あいあいとプレーすることが出来ました。そんな中、見事なパワープレーで、海南医療センターの阪口先生が優勝いたしました。おめでとうございます。次回は、5月8日（日）、ラ・グレースゴルフ倶楽部にて開催予定となっていますので、若い先生、女性の方の参加お待ちしております。

参加申し込み：sakaguchi-kazuo@kic-kainan-hsp.jp 海南医療センター 阪口 和男



◇バリアフリー体験学習会の開催報告（協会独自事業）

日 時：平成 27 年 12 月 3 日（木）13:30～15:30
場 所：海南市立中野上小学校
対象者：6 年生児童・PTA 36 名
参加者：阪口（海南医療センター）、吉富（日赤）



◇「橋本・伊都ふれあい広場」イベントへの参加報告（伊都振興局主催事業）

日 時：平成 27 年 12 月 12 日（土）12:30～14:30
場 所：橋本市産業文化会館 アゼレア（橋本市高野口町向島）
対象者：「橋本・伊都ふれあい広場 障害のある人との交流を深めよう！」イベント参加者
参加者：前田・平岡（紀和病院）、安達・前馬・吉富（日赤）
内 容：バリアフリーについての講演、ステージ上にて参加者の車椅子体験



◇新春新聞掲載報告

①毎日新聞 平成28年1月3日(日)別刷「正月」特集
内容：会長「年頭所感」掲載

②読売新聞 平成28年1月4日(月)和歌山版
内容：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の3会長の「新春挨拶文」掲載

③産経新聞 平成28年1月3日(日)協会広告 掲載

ブロック通信

「脳卒中患者と家族の会」

第4ブロック 北出病院 塩路 宗義

平成27年11月28日に第4ブロックの社会医療法人 黎明会 北出病院にて第一回脳卒中患者と家族の会を開催させていただきました。脳卒中患者様とそのご家族様に、「日々の生活での取り組みや悩みを共有する場」、「再発予防や脳卒中の病気・障害の理解、それに対する援助の方法について学習する場」、そして「参加者同士の意見交換によってお互いの日常生活をよりよいものにしていく」ことを目的に本会を設立しました。第一回ではありましたが19名の方が参加くださいました。

内容は、脳神経外科医の龍神幸明先生の開会宣言としまして、現在の脳卒中の現状や今後の本会の目的をお話していただきました。そして当院の理学療法士による、自宅でできるリハビリテーションと題しまして、簡単な手・指・足に分けた体操を実施しました。最後にご参加いただいた方同士で懇親・意見交換をかねた茶話会を実施し、大いに盛り上がりました。茶話会では当院職員も参加させてもらい、日常で悩んでいることや実際取り組んでいる生活方法など新しい知識をいただきました。当初、茶話会を30分と予定していたのですが、少し時間を延長するくらいでした。これからは参加者の皆様といっしょに本会を育てていきたいと思っています。



地域局より

【紀北地域局】

紀北地域局担当理事 永金 宣秀

平成27年度和歌山支局主催紀北地区合同勉強会

日 時：平成27年12月6日（日）9：30～

場 所：和歌山労災病院 大会議室

内 容：6セッション8演題の症例検討会

第3回紀北地域局研修会

日 時：平成28年3月20日（日）9：00～

場 所：公立那賀病院 北別館1階 講義室

内 容：「訪問リハビリテーションの実際～制度から個別対応まで～」

講 師：真鍋阿沙子先生 八尾はあとふる病院

会 議

日 時：平成28年1月13日（水）19：30～

場 所：名手病院

内 容：第4回 第1ブロック会議

参 加：7施設8名

【和歌山市地域局】

和歌山市地域局担当理事 辻中 清晃

第1回第2aブロック会議

日 時：平成27年9月24日（木）19：30～21：00

場 所：西和歌山病院 リハビリテーション室

参加者：吉田、原野、赤澤、由利、辻中

内 容：和歌山市局紀北局合同勉強会準備

和歌山市局紀北局合同勉強会

日 時：平成27年12月6日（日）9：30～13：30

会 場：和歌山労災病院 2階大会議室

内 容：学術発表

第1セッション アドバイザー：赤澤 直紀（河西田村病院）

1. 『リトルリーガーズショルダーに対するアプローチ ～軸足側の「並進運動」の向上を目指して～』
山口整形外科 花澤 晃宏
2. 『外側型変形性膝関節症に対する足底挿板を用いたアプローチ ～卓球時の痛みに着目して～』
山口整形外科 花澤 晃宏
3. 『右変形性膝関節症を呈し、TKA 術を施行した症例 ～右膝関節の運動制御向上にむけて～』
山口整形外科 島 啓文

第2セッション アドバイザー：浅見 岳志（貴志川リハビリテーション病院）

4. 『慢性腰痛患者の腰部安定化に対する Motor control exercises の介入 ～シングルケースを通じて～』
貴志川リハビリテーション病院 上谷 佑稀

第3セッション アドバイザー：貴志 将紀（河西田村病院）

5. 『要介護高齢女性の筋肉脂肪量と歩行自立度との関連』
河西田村病院 堺 隆示

第4セッション アドバイザー：原野 晶（和歌山労災病院）

6. 『CVA 患者の歩行動作改善への一考察 ～筋の不均衡向上を目指し、体幹深層筋へのアプローチ～』
橋本市民病院 辻 友晃

第5セッション アドバイザー：木下 敦子（中谷病院）

7. 『広範囲熱傷による、左上下肢切断患者の自宅復帰 ～義足作成せず、屋内ADL が自立した例～』
中谷病院 井ノ上 祐子

第6セッション アドバイザー：小林 啓晋（角谷リハビリテーション病院）

8. 『直流前庭電気刺激（Galvanic Vestibular Stimulation）の可能性 ～臨床への応用～』
角谷リハビリテーション病院 中前 匡揮

第3回第2cブロック会議

日 時：平成28年1月21日（木）19：30～21：00
場 所：角谷リハビリテーション病院
参加者：小林、鳥居、井瀬、高根、風神、辻中
内 容：平成28年度第2cブロック事業計画

第1回和歌山市地域局ブロック長会議

日 時：平成28年2月9日（火）19：30～21：00
場 所：和歌山労災病院 リハビリテーション室
参加者：吉田、田川、小林、辻中
内 容：各ブロック平成27年度事業報告、各ブロック平成28年度事業計画

【中紀地域局】

中紀地域局担当理事 西川 典男

ブロック役員会議

日 時：平成27年12月3日（木）19：30～21：00
場 所：国保日高総合病院
参加者：西川、橋尾、戸根、宮本

中紀局学会（2年目会員による発表）

日 時：平成27年12月20日（日） 9：00～17：00
場 所：海南市民交流センター
参加者：15施設68名

第1セッション 座長：吉岡 大裕（辻整形外科）

1. 『訪問リハビリを経験して ～回復期から在宅へのソフトランシングを目指して～』
北出病院 嶋本 佳奈
2. 『COPD 患者に訪問リハビリを実施し改善がみられた一症例』
西岡病院 出口 貴浩

3. 『既往に心房細動があり化膿性脊椎炎による長期安静臥床のため、離床許可後、動作時に頻拍が惹起された高齢者に対する運動療法の成果』 北出病院 南野 太佑
4. 『左 TKA 術後患者の歩行能力向上を目指した一症例 ～SST を使用した経験～』 済生会有田病院 徳廣 竜一
5. 『機能予後不良な内頸動脈閉塞症患者に対しての歩行訓練の検討』 北出病院 川村 知也

第2セッション 座長：芝 敏貴（リバティ博愛）

6. 『矛盾性運動を利用した歩行支援具のパーキンソニズムに対する有効性』 北出病院 藤堂 博行
7. 『歩行所要時間のばらつきが転倒リスクと関係するののか？ ～Timed Up & Go Test と 10m 歩行 test の標準偏差を用いて～』 海南医療センター 場谷 理範
8. 『非骨傷性脊髄損傷者の生活様式を考慮した装具検討』 北出病院 山本 享
9. 『運動失調を呈した終末期癌患者に対する一症例』 国立病院機構和歌山病院 橋本 栞
10. 『脳血管障害を有する糖尿病患者へのリハビリテーションの経験』 北出病院 山本 祐司

第3セッション 座長：佐野 真寛（済生会有田病院）

11. 『両足趾関節形成術を施行された関節リウマチに対する運動療法の工夫』 北出病院 浅香 智紀
12. 『変形性膝関節症患者における母趾伸展角度と歩幅に及ぼす因子との関係』 辻整形外科 久保 朱加
13. 『誤嚥性肺炎を繰り返している高齢者に対するリハビリテーション ～呼吸筋群トレーニングに着目して～』 北出病院 義本 泰隆
14. 『テーピングアプローチによる疼痛軽減』 さくらクリニック 南方 勇樹
15. 『2ヶ月間におけるロコモティブシンドローム教室による効果』 北出病院 村山 正直

第4セッション 座長：森本 喬也（栗原整形外科）

16. 『電気刺激が荷重量へ与える影響』 西岡病院 玉置 弘貴
17. 『整形外科分野における疼痛と荷重量に対する音楽の効果について』 辻整形外科 倉橋 典也
18. 『変形性膝関節症患者における Four Square Step Test と敏捷性評価の関連性』 辻整形外科 田中 正道
19. 『脚長差を有する腰痛患者に対し、屋内における簡易的な補高靴が有効であった症例』 北出病院 古川 大貴
20. 『変形性膝関節症、廃用症候群がある症例に対し、在宅復帰に向けアライメントに着目した一症例』 リバティ博愛 西谷 和起

中紀局忘年会

日 時：平成27年12月20日（日） 18：30～21：30
場 所：ちゃんこ与太郎
参加者：9市施設39名

ブロック役員会議

日 時：平成28年1月7日（木）19：30～21：00
場 所：国保日高総合病院
参加者：西川、橋尾、戸根、宮本

【紀南地域局】

紀南地域局担当理事 安井 常正

第1回紀南地域局研修会

日 時：平成27年7月4日（土）13：00～17：00
場 所：新宮市立医療センター
内 容：前庭リハビリテーション ー実技ー
講 師：浅井友詞先生（日本福祉大学 健康科学部教授）
参加者：23名

懇親会

日 時：平成27年7月4日（土）18：00
場 所：ひょうたん 参加者：8名

第2回紀南地域局研修会

日 時：平成27年10月31日（土）13：00～18：00
場 所：上富田社会福祉協議会
内 容：内部障害（呼吸・循環器・代謝疾患）についての研修
講 師：平 和晃（白浜はまゆう病院）、武田真和（紀南病院）、森本信三（白浜はまゆう病院）
参加者：46名

懇親会

日 時：平成27年10月31日（土）19：00
場 所：ようゆうわ 参加者：15名

第3回紀南地域局研修会

日 時：平成27年12月5日（土）13：00～18：00
場 所：紀南病院
内 容：内部障害（呼吸・循環器・代謝疾患）についての研修 実技編
講 師：平 和晃（白浜はまゆう病院）、武田真和（紀南病院）、森本信三（白浜はまゆう病院）
参加者：33名

紀南地域局学会

日 時：平成27年12月6日（日）9：00～12：00
場 所：成華苑
参加者：29名

第1セッション 座長：鎌田 啓司（リハビリ訪問看護センター やたがらす）

- 『左股関節・膝関節伸展筋群の筋力低下と左膝関節伸展の関節可動域の制限により歩行の実用性が低下した左人工膝関節全置換術後の一症例』 田辺中央病院 日用 茉悠
- 『右立脚初期から中期に右前側方へ不安定性が生じた右大腿骨顆上骨折の一症例』 田辺中央病院 李 圭敦
- 『大腿骨転子部骨折を呈した低栄養状態の超高齢者への関わり ～屋内歩行獲得を目指して～』 白浜はまゆう病院 有本 佳将

第2セッション 座長：翠川 正博（田辺中央病院）

- 『平行棒内での立ち上がり動作に着目した一症例 ～環境設定を用いたアプローチについて～』 串本有田病院 宮澤 直樹
- 『脳梗塞により左片麻痺を呈した症例に長下肢装具を用い、歩行再獲得を目指した1症例』 白浜はまゆう病院 古家 真緒
- 『脳血管障害患者に対し当院回復期病棟を経ての退院前と退院後の比較 ～FIMと歩行動作に着目して～』 白浜はまゆう病院 井口 功士
- 『糖尿病性壊疽により両下腿切断術施行された一症例 ～プッシュアップ動作獲得を目指して～』 串本有田病院 山本 祐己

第4回紀南地域局研修会

日 時：平成28年1月9日（土）13：00～18：00

場 所：新宮市立医療センター

内 容：日常動作・基本動作の再構築を考える－分析的・論理的思考に基づいた顕在認知と情動的、本能的な潜在認知の連携

講 師：富田昌夫先生（藤田保健衛生大学）

参加者：30名

懇親会

日 時：平成28年1月9日（土）19：00～21：00

場 所：Manaya

参加者：12名

関節運動療法研修会

日 時：平成28年1月16日（土）9：00～16：30

場 所：成華苑

内 容：講義、実技

講 師：平木治朗先生（森ノ宮医療大学）

参加者：29名

ブロック長会議

日 時：平成28年1月16日（土）

場 所：成華苑

内 容：次年度事業計画等について

勉強会

日 時：平成27年9月3日（木）18：30～19：30

場 所：新宮市立医療センター

内 容：IVESのデモンストレーション（オーギー技研）

参加者：15名

勉強会

日 時：平成28年2月2日（火）18：00～

場 所：くしもと町立病院

内 容：UKA

講 師：横嶋博充（くしもと病院）

参加者：24名

◇平成27年度 第2回紀南地域局研修会

第5ブロック長 泉 順和

平成27年10月31日（土）「内部障害（呼吸、循環器、代謝性疾患）に対する研修会」というテーマで研修会を開催し、21施設46名の参加がありました。研修会では、座学を中心に、呼吸、心臓、代謝に関する解剖学や生理学、リスク管理について講義をして頂きました。基礎的な事柄から最新の知見を学べる貴重な機会となりました。また、紀北から紀南まで幅広く参加を頂けたので、交流を図る良い機会になったと思います。

本研修会は、お話を頂いた段階から講師3名の先生方が中心となり、連絡を取り合い、時には直接会って講義内容の検討や準備・運営を行って来ました。一つの目標に向かって協同する経験を頂き、3名の先生方には感謝すると共に、今後もこういう機会を積極的に作っていかうと思います。

最後に、講師の先生方をはじめ、当日までご尽力頂きました関係者の皆様、研修会に参加頂きました先生方に感謝いたします。

◇平成 27 年度 第 4 回紀南地紀局研修会

第 6 ブロック長 西畑 将史

平成 28 年 1 月 9 日（土）に第 4 回紀南地域局研修会を開催させて頂きました。今年度も講師に富田昌夫 先生（藤田保健衛生大学医療科学部・佛教大学保健医療技術学部 客員教授）をお招きし、『日常動作・基本動作の再構築を考えるー分析的・論理的思考に基づいた顕在認知と情動的、本能的な潜在認知の連携』をテーマに、講義・実技の指導をして頂き、内容の濃い研修会になりました。

講義の資料の中に『社会的な動作や行為をやろうと決断するのは皮質であるが、日常的にできる動作や行為なら、皮質では意識したり考えたりしないということである。手足は知覚循環で探索しながら最適な動きをするのであり、意識して動かすのではない。行動する時、大脳皮質は基本動作ができるという大前提のもとで活動している』という一文がありました。このことから、私たちが理学療法を行うにあたり、基本動作の手順を指導していくのではなく、知覚循環の得られやすい身体づくりを行い、探索しながら最適な動きが行えるよう、理学療法を行っていかねばならないと実感しました。

事務局より

他団体・他士会からのニュース 学術誌の受領報告 (H27.11.11～H.28.2.19)

【ニュース】

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| (公社)兵庫県 No.162. | (公社)山梨県 No.146. |
| (公社)新潟県 No.171. | (公社)大分県 No.105(166). |
| (公社)滋賀県 No.192. | (一社)静岡県 No.153. |
| (公社)広島県 No.240,241. | (公社)大阪府 No.252. |
| (公社)愛知県 No.179. | (一社)京都府 No.267. |
| (公社)神奈川県 No.266. | (一社)埼玉県 No.83. |
| (公社)秋田県 No.167, No.168. | (一社)群馬県 No.124. |
| (公社)長崎県 No.53, 54. | |

【学術誌・学会誌・機関誌・記念誌】

- ・理学療法兵庫 No.21 2015
- ・第 26 回 岐阜県理学療法学会 「若い力～未来への礎～」
- ・愛知県理学療法学会誌 Vol.28 特別号 2016
- ・熊本県理学療法士協会 かくどけい Vol.120
- ・理学療法 臨床・研究・教育 第 23 巻
- ・医療従事者のためのわかやまホスピタルガイド
- ・第 24 回 埼玉県理学療法学会 抄録集
- ・第 55 回 近畿理学療法学会大会誌
- ・理学療法みえ 2015 第 1 巻
- ・和歌山県病院協会会報 平成 27 年 11 月号 No.229
- ・和歌山県スポーツ振興財団 SPOSHIN
- ・愛知県理学療法学会誌 Vol.27 No.2 2015
- ・第 2 回日本スポーツ理学療法学会術集会誌
- ・秋田理学療法 Vol.23 No.1 2015
- ・和歌山県言語聴覚士会 News Letter 第 29 号
- ・社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会 法人設立 60 周年記念誌 1955～2015
- ・第 26 回 京都府理学療法士学会 学会誌
- ・京都リハビリテーション医学研究会 会誌 第 2 巻
- ・京都府立医科大学 リハビリテーション医学教室

- ・和歌山県病院協会会報 平成 28 年 1 月号 No.230
- ・和歌山県理学療法士連盟ニュース 2016.1 No.6

以上の刊行物をご覧になりたい方は、事務局、資料調査・管理部の酒井雄亮氏（琴の浦リハビリテーションセンター）までお問い合わせ下さい。

■事務局からのお願い■

庶務部より

庶務部長 小田 佳亮

施設長名変更時のお願い

変更があった場合、速やかに協会庶務宛に FAX またはメールにてご連絡下さい。
 協会事務局 FAX：073-446-1207
 メールアドレス：wpt-shom@pt-wakayama.or.jp
 記載の内容に関しては、変更前の氏名と変更後の氏名の両方を記載お願いします。
 また、フリガナの記載もよろしくお願い致します。
 FAXにて送信して頂く場合は文字を大きめで崩さずに記載して頂けるようにお願いします。

会員異動申請について

会員の皆様の中で、自宅会員として異動申請される方がいます。
 日本理学療法士協会において、会員区分として下記のとおり勤務先をもつ会員は勤務先会員となります。
 これは、和歌山県理学療法士協会でも同様です。
 自宅会員とは勤務先を持たない会員のことです。パート勤務の会員で、現在の登録が自宅会員となっている先生方は、再度異動申請の手続きをお願いいたします。

【会員区分について】

勤務先会員	勤務先をもつ正会員 <u>※非常勤の方も勤務先をもつ場合は勤務先会員をご選択ください</u>
自宅会員	勤務先をもたない正会員および休会会員
海外会員	海外に居住する正会員

【所属都道府県士会について】

勤務先会員	勤務先がある県の士会に所属
自宅会員	自宅がある県の士会に所属

（日本理学療法士協会 HP より）

編集後記

現在、和歌山県理学療法士協会も1,000名を超える組織となりました。私が理学療法士となった20年前は会員百数十名で、ほとんどの病院がスタッフ2～3名程度と少なく、ミーティングなどすることも少なかったのではないのでしょうか。それがここ数年、各病院のスタッフ数も急激に増加し、病院内でのスタッフ間のコミュニケーションも難しくなっているように感じます。

組織とは、「共通の目標を有し、目標達成のために協働を行う何らかの手段で統制された複数の人々の行為やコミュニケーションによって構成されるシステムのこと」とあります。

重要なのは大多数となった組織のコミュニケーションをどう図るか。そして組織としての共通目標は何か。それぞれが意識し、意見を出し合う必要があると思います。

年度末は1年を振り返るいい機会です。平成27年度は紀の国わかやま国体・わかやま大会で多くの皆様の協力を得て無事成功裏に終えることができました。地域包括ケアシステム構築に向けての準備も着々と進められています。平成28年度は11月26日、27日に近畿理学療法学会大会が6年ぶりに和歌山で開催されます。現在準備委員会を設置し、準備を進めているところです。大会が近づくにつれ、参加協力を依頼させていただくこともあるかと思いますが協力の程よろしくお願い致します。

(広報局会誌編集部長 上野山 佳男)



公益社団法人

和歌山県理学療法士協会

公益社団法人 和歌山県理学療法士協会
【事務局】
琴の浦リハビリテーションセンター内
〒641-0014 和歌山市毛見1451
TEL 073(499)5000